

台湾周遊4 2011(1)

2011年03月07日(月曜日) 10数年振り、2度目の台湾旅行へ出る朝 3時30分に目覚ましをセットしておいた。朝食は空港でとることにして、温かいお茶を飲んで身支度を始める。旅行中は何時も、**出発時間に対して2時間前の起床**を心掛けている。そうすると、あわてる様なことは、ほとんど起こらない。なので、ちょっと贅沢にも似たゆとりある気分になれるから嬉しい。

am5時25分、予約しておいたタクシーに乗り込み家を出る。街の建物には、そのほとんどにまだ灯りがともっていない。早朝のバスセンターには...眠そうに目を閉じてバスを待つ人々。高速バスで6時に出発して福岡国際空港へ向かう。高速バスの運行速度は、マイカー並に速い。6時30分頃になると空は「しのめ色」に変化し、昨日までの雨は上がって霧が深く立ちこめている。車窓の景色はまるで墨絵のようだ。

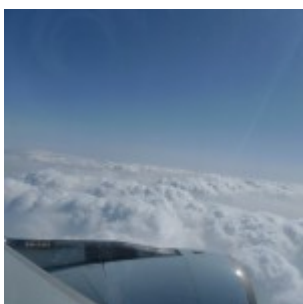


福岡国際空港には7時40分予定時刻に到着した。直ぐにレストランで朝食を済ませ、ツアーカウンターで手続きをする。

搭乗時間が近づきゲートに並んでいると、中年の黒人男性が話しかけてきた。**スリランカ**の人で、日本語が上手。10日ほど日本に滞在して、スリランカへの観光誘致をしてきたとのこと...私達にも是非来てほしいとパン

フをくれた。その男性と一緒に9時45分、機内へ乗り込んだ。

10時15分、機体はエプロンを離れ、10時30分にテイクオフする。離陸からおよそ30分後、機内食が配られた。機内食はチキンとビーフの2種類...贅沢を言うようだがお世辞にも美味しいとは言えない。ワイン



を貰って流し込んだ。

福岡から台北まではおよそ3時間弱のフライトと聞いていたが、予定より15分ほど早い、現地時刻11時50分に台北空港に着陸した。



空港は濃いガス?...青空は全く見えない...スモッグ?。外気温

はなんと13 ...肌寒い。 この空港で、ツアー客7名が集まった。最終的には19名の団体となるそうだ。高速道路を使ってバスで移動し、最初に「**忠烈祠**」に案内された。



バスを降り立ったところは、**忠烈祠の大門**の前で、警備に2人の衛兵が立っていた。

この忠烈祠の大門の奥に建つ大殿には、辛亥革命（1911年）を始めとする一連の革命戦争で亡くなった志士 軍人や革命家のほか、著名な政治家 国家に貢献した人々、**約33万人の英霊が祀られている**そうだ。

台湾の歴史は、革命と戦いの歴史とも言われている。1911年、清朝打倒をスローガンに辛亥革命が勃発。この革命の精神的な指導者となったのが、台湾の国父と呼ばれる「孫文」である。革命は成功を収め、1912年に「中華民国」が成立した。この時の様子を描いたレリーフが、対日交戦のレリーフと向き合う形で山門の壁に掲げられていた。

1969年に竣工された忠烈祠は、手前から**大門**、そして**中央広場** 左右に**鐘楼と鼓楼** その奥に**山門**と**大殿**などで構成されていた。大殿や鐘楼は、中国の宮殿様式を採用しているようで、赤い柱と豪華絢爛な彫刻が凄い。北京の紫禁城が**モデル**となっているようで、この大殿の入口にも2人の衛兵が警備に立っていた。



午後2時から衛兵交代式を見る。 大門の奥の宿舎らしきところから、軍靴の音が聞こえて来る。軍靴には仕掛けがしてあるとのことだが、高く上げた足で地面を叩くように踏みしめる度に、ガチャン・ガチャンという金属的な音だけが、静かな空間



に響きわたる。
人の隊列を組んだ兵士達が、大門から大殿に向かって行進して行く。びしっと制服を着込んだ儀仗兵が、銃を肩に、一糸乱れぬ様子で行進してゆく、その真剣な表情には圧倒される。



大殿に到着した儀仗兵隊は、任務に当たっていた衛兵2名と合流し、殿内に向かって敬礼をする。次に、銃を交換したり、バトンのように回す一連の儀式を終えた後に、次の担当衛兵2名を残し、大門へと引き返す。



重そうな銃を軽々と高く投げたり、素早くお互いに投げ渡したりする技術は、息がぴったり合ってお見事である。

こうして、衛兵交代式は終わるが、この衛兵たちは、陸海空軍から選ばれた兵士。私達が見学した交代式には、陸軍の兵士たちが任務についていた。いずれの衛兵たちも、各軍から選抜されたエリートだそうだ。



忠烈祠を後にして松山空港に向かう。そして、このローカルの空港から花蓮空港へと飛び立つことになった。

プロペラ飛行機である。15:00丁度にエプロンを離れ、かなりのスピードで滑走路に向かった。そして、滑走路のスタートラインに入るなり動

きを止めることなく、プロペラの回転がひときわ高まり「ぶんー」という音とともに機体がふわりと浮いた。

まさに飛んでいると言った感触である。高度を上げたかと思うと直ぐに、飲み物が配られた。お茶のパックだ...飲むと香り高く甘くて美味しい紅茶である。

そうしているうちに、機体は高度を下げて、着陸態勢に入った。15:35に花蓮空港に着陸した。この空港から、今回のツアーの全員19人が揃った。バスで今晚の宿泊ホテルへと向かう。



ホテル到着後チェックインを済ませ、暫く部屋でゆっくりしたのち、17:00にロビーに集合。夕食を前に、**アミ族の伝統的踊り**を見に行くことになった。約1時間のショーを観賞をしてホテルに戻り、**広東料理での夕食**となった。

夕食では、周りの皆さんのほとんどがお飲みになるというので、慣れない「紹興酒」だったが、私も少し恐る恐る飲んでみることにした。若いころ、日本の中華料理店でこの紹興酒を飲み悪酔いをし、ずいぶん辛い思いをした記憶がしっかりとあるからであった。それ以来こりこりしていた紹興酒...だが、今晚のこの10年もの熟成された紹興酒は美味しい。

この紹興酒が450元（ボトル）で、ワインが200元（グラス）とお酒は高くない。初対面のツアー仲間とも、**熱燗の紹興酒**の力をかりてすぐに和み、長い時間、夕食を楽しむことが出来た。

暖かい台湾を期待して来たが、異常気象だそうで夜は寒い。宿泊はパークビューホテル...大きくて内部も綺麗。部屋も広く気持ちがいい...が、暖房機がない。なので追加の毛布を運んで貰って休んだ。